

051

地域創生と持続可能な防災教育のためのアートプロジェクト

取組主体

一般社団法人三陸まちづくり ART

従業員数

想定災害

実施地域

4人

全般

岩手県

・東日本大震災後に建設された防潮堤にタイルアートを施すことで、震災の記憶を伝えるとともに、観光資源の創出、景観の改善、管理を通じた雇用創出などの地域の課題解決に取り組んでいる。

1 取組の概要

防潮堤にタイルアートを施す三陸ブルーラインプロジェクト

- ・三陸沿岸地域で舞台芸術の普及等を行う一般社団法人三陸まちづくり ART は、未来を担う若者に地域の文化を震災の記憶とともに伝えるため、2022年に防潮堤にタイルアートを施す「三陸ブルーラインプロジェクト」を始動した。
- ・大船渡市の中心部には、高さ 7.5m、長さ 1.2km ほどの防潮堤がある。素材は塗装がいらぬタイルで、加工をしていなくても約 40 年の耐用年数があるため、長期間タイルアートを掲載することが可能である。
- ・アーティストを招待し、ワークショップを開催。小中学生や市民が様々な大きさ・色・形のタイルを土台となる板に自由に貼り付け、作品を製作している。



防潮堤一面のアート

2 取組の特徴（取組の狙い、工夫した点、差別化した点等）

持続可能な防災教育

- ・「3.11 の津波はこの防潮堤よりも 2 メートルも高かった。より高いところに逃げねばならない」という教えを視覚的に理解することで記憶に残りやすいため、防潮堤が残る限り、防災教育を持続的に受け継ぐことができる。

防災教育の入口の広さ

- ・モザイクタイルアート製作などのワークショップを入口とすることで多くの人を集め、「東日本大震災で何が起きたか」や防災のための備え等、多くの方へ防災教育を行うきっかけとして機能した。

3 取組の効果

- ・美術製作のワークショップには、地域の子どもから高齢者まで多くの住民が参加し、被災後の住民の心に安らぎを与えている。
- ・ワークショップの美術作品を子どもたちの協力を得ながら防潮堤に設置することで、震災を知らない子どもたちに対して津波の脅威や防災活動の重要性を知ることのきっかけとなっている。

4 取組への想い

薄れてきた東日本大震災の記憶

- ・被災地域の若年層にとって、東日本大震災の記憶が薄れてきている。特に小学生などは震災後に生まれ、被災した親族がいても防災の意識や防潮堤の意義などを把握していないことが多い。また、配偶者を亡くされた独居老人も増え、災害公営住宅の中での関わり合いも少なくなった。



タイルアートは地域活性にもつながる

国土強靱化

三陸地域の文化とともに大震災の学びを受け継ぐ

- ・災害公営住宅や被災地の学童クラブ・保育園等において、美術家を招き、大小のタイルを使用したモザイクタイルアート作品を製作するワークショップなどを開催し、完成した作品を防潮堤に展示した。
- ・本プロジェクトを通して、若い世代に三陸地方の文化や自然の素晴らしさを伝えつつ防災教育も実施することで、三陸地方に震災前に勝るさらなる発展をもたらしたい。

5 防災・減災以外の効果

地域活性化のきっかけ

- ・東日本大震災以降、防潮堤から約 400m は人が住めない商業特区となっている。ワークショップや作品展示でこの防潮堤への往来を促すことで、地域の住民同士の交流やにぎわいを創出している。
- ・年齢や美術作品製作の得手不得手に関わらず、市民や観光客が気軽に参加でき、そこで生まれる交流がまた別の新しいプロジェクト創出や、既存プロジェクト間の協働につながっている。

観光資源と雇用の創出

- ・被災地に存在した防潮堤へのタイルアートという話題性や取組の有意性から、全国から観光に訪れる観光資源になった。また、防潮堤の管理を通じた地域の雇用創出につながっている。

6 現状の課題・今後の展開等

展示期間が期間限定

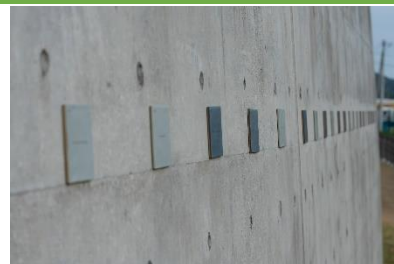
- ・2023年現在は、期間限定で3か月間の展示となっている。次回(2024年3月～)は1年間の展示を予定。
- ・さまざまな未来へのメッセージをタイルに刻印し、地域の子どもの作品も同時に展示していくことで、未来へ繋げていくことができると考えている。

自走するためのコスト面

- ・課題としては、展示数を増やすことやその管理のコスト。国の補助や地域の協賛によって事業を行ってきたが、今後は自走しなくてはならないと考えている。そのため組織づくりを着々と行っていきたい。

7 周囲の声

- ・「地元に戻ると海が見えなくなって寂しさを感じていました。恐怖をもたらした海だけど、やっぱり海を感じていたい、震災前のように海をもっと身近に感じたいと思っていたので、このプロジェクトは応援したいと思いました。地元に戻った時には見に行きます！」(クラウドファンディング寄付者の声)
- ・「圧迫感のある防潮堤ですが、多くの人の思いが集まり青く輝くことを楽しみにしています。」(クラウドファンディング寄付者の声)



クラウドファンディング寄付者の声
(タイルにメッセージを添えている)

担当者の声

海と街を隔てる防潮堤がいよいよ完成となり、宮城県や岩手県でも防潮堤を活用したさまざまな試みが始まっています。その中で、「三陸ブルーラインプロジェクト」は、地域の子どもの主役としながらも地域外とつながる試みだと考えております。また、タイルの刻印に多くの方が参加していただくことで持続可能な事業となります。遠方からでも参加可能です。皆様のご支援、ご参加をお待ちしております。

問合せ先

一般社団法人三陸まちづくり ART
電話番号：050-5806-8896 FAX：0192-47-5125
Email：art@sanrk.com
URL：http://art.sanrk.com/

動画



サイト URL

